

平成 14 年 10 月 31 日

共用試験医科 CBT について

共用試験実施機構
医科 CBT 問題作成分科会

共用試験とは、医学生のみなさんが、診療参加型の臨床実習を行う上で欠かすことのできない態度・技能・知識をもっているかについて評価するものです。コンピュータシステムを活用して医学的知識を十分備えているかを評価する CBT (Computer-Based Testing) と、臨床的な技能・態度を客観的に評価する OSCE (Objective Structured Clinical Examination) の 2 種類の試験から成り立っています。平成 13 年に「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」等によりこのような試験の必要性が指摘され、また社会からも大きな関心を集めているものです。

医科 CBT は平成 17 年の本格導入を予定していますが、これを円滑に実施し、かつ効果的なものとするため、平成 13 年から問題の作成、ブラッシュアップ、プール、システムの稼働確認などの準備を進めています。平成 15 年は第 2 回トライアルを予定していますが、これは問題の質を高め、試験システムを充実させるために行うものです。このトライアルには、みなさんの協力が是非とも必要です。また、これに参加することにより、自分の医学的知識の到達度を知ることができます。

共用試験の成否は、今後の医学教育の改善の鍵を握る重要なものであり、参加大学一同全力を挙げてこれに取り組んでいるところです。みなさんには是非ご参加いただき、今後の医学教育の質の向上に貢献していただきたいと思っております。

なお、CBT の成績につきましては、後日大学にお知らせしますので参考にしていただければ幸いです。

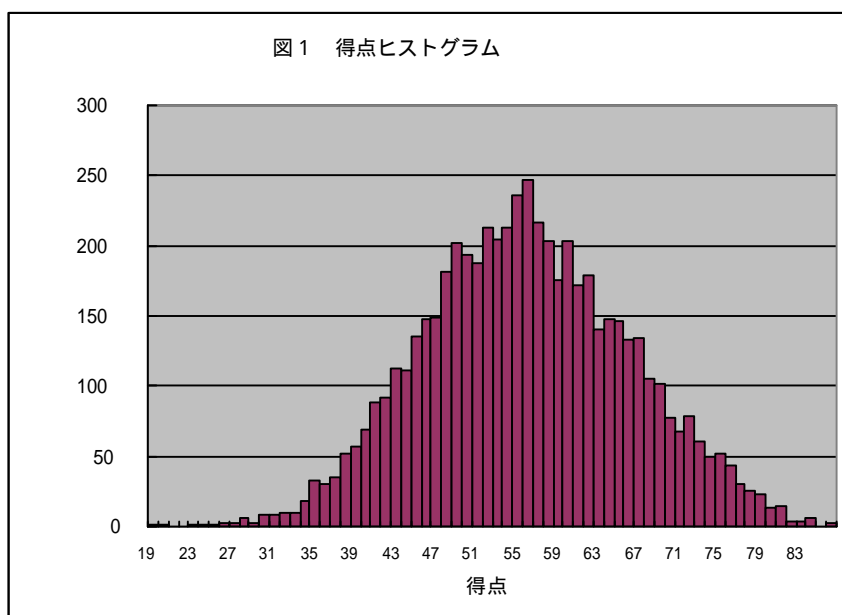
医学部学生向けパンフレット

第1回医科 CBT トライアルについて

平成14年2月～5月に77の医科大学が参加して第1回医科 CBT トライアルが実施されました。

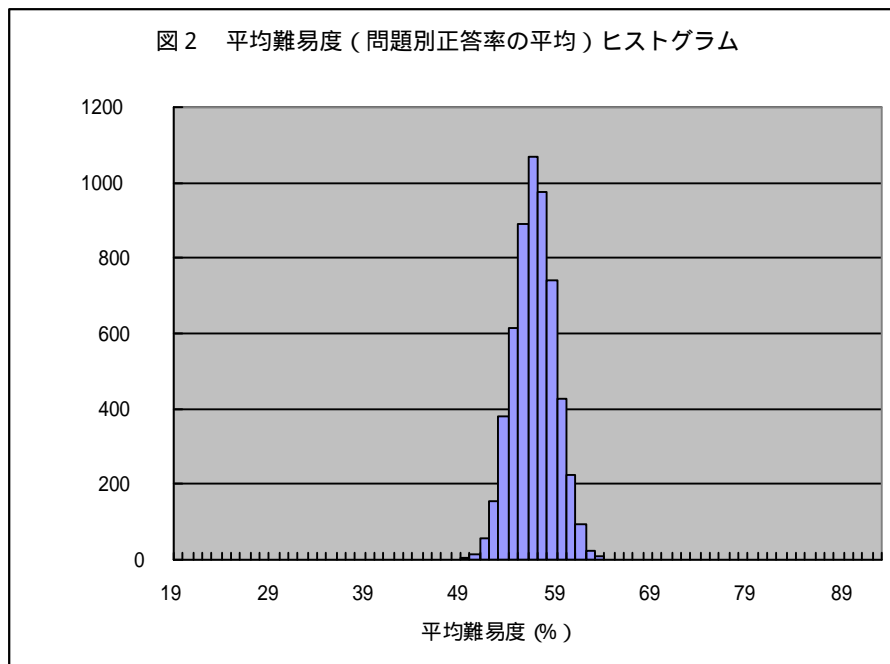


出題範囲は「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の A?F の学習目標に示された内容で、五肢択一形式の問題 100 題を 2 時間で解くというものでした。試験問題は全国の大学から集められて数千題が専門委員のブラッシュアップを経て選び出され、各受験者には無作為に割り振られて出題されました。受験者総数は 5693 名で、全員の成績を解析した結果、得点平均は 55.9 点、標準偏差は 10.2 点でした (図 1)。



医学部学生向けパンフレット

また問題の難易度の分布をみると平均 55.7% でばらつきも小さく(図 2)、学生ごとの問題の難易度はほぼ均等であったと考えられます。また、受験者からは、「出題分野に偏りがある」、「授業で学んでいないことが出題された」などとの声もありましたが、「画像が鮮明で分かりやすかった」、「4年を終わる時点では適切な内容の試験であった」、「ちょうど良い難易度であった」などの肯定的な感想も多く聞かれました。



第2回医科 CBT トライアルの実施予定と今後の計画について

平成15年2～5月には第2回医科 CBT トライアルの実施を予定しています。主な目的は、良質な問題を抽出して蓄積すること、CBT およびその運用システムに問題がないかを検証すること、CBT システムへの理解を高めることです。

試験問題は第1回トライアルと同様に全国の大学から集められ、ブラッシュアップを経て選び出されたものです。また、出題は五肢択一形式が240題（全参加校が受験）で、これに順次解答二連問形式40題と順次解答四連問形式20題が加わり、全部で300題となり（サンプル問題参照）全問題を受験する場合は6時間かかります。また、五肢択一形式問題の出題範囲はモデル・コア・カリキュラムの A? F、順次解答形式問題の出題範囲は主として E-1 の「症候・病態からのアプローチ」となります。

今後、さらに、試験問題作成ソフトの開発・改良を続けて新規問題を集め、試験問題を厳正に評価して良問を抽出・蓄積し、トライアルを繰り返して問題点を把握すべく努力して参ります。学生のみなさんにはぜひトライアルにご参加いただき、CBT システムがより適切な評価システムになるようご協力下さいますようお願い致します。

「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告書及び「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の内容については、

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/010/index.htm

の【答申】をご覧下さい。

- 各大学における実施の詳細は所属大学の教務担当者にお問い合わせでご確認下さい。